

日本ITU協会 研究会開催一覧 (2026年1月～3月)

ITU-R研究会	テーマ	概要	講師
第430回 2026年1月29日	ITU-R Working Party 5C (固定無線システム) における最近の活動状況について	ITU-R Working Party 5C (WP 5C) は、固定無線システム等に関する技術的検討を行っている作業部会です。 最近では、WRC-27 議題1.10である70/80GHz帯の固定・移動業務保護のための固定衛星、移動衛星、放送衛星業務に関する電力束密度 (pdf) 及び等価等方輻射電力 (e.i.r.p.) 制限の検討をはじめとした他業務との共用についての議論や、固定無線システムに用いられる技術の議論が進められています。 本講演ではこれらを含む最近の検討状況とともに、固定無線に関する近年及び将来の動向について理解を深めることを目的として2025年11月に開催されたITU-R Workshop on Fixed Wireless Systems ^(※) について、その概要を紹介いたします。 (※) https://www.itu.int/en/ITU-R/seminars/Fixed-Wireless-Service/Pages/default.aspx	NTT株式会社 アクセスサービスシステム 研究所 准特別研究員 大槻 信也氏
第431回 2026年2月19日	JAXAにおける無線利用について	地上から離れた宇宙空間や上空で活動するには無線が不可欠です。JAXAでは、ロケット、地球観測、衛星通信、有人宇宙、月・深宇宙探査、航空など多くの活動に無線を利用しています。本報告では、JAXAのミッションの確実な遂行を支える無線利用、無線需要が増大する中での周波数共用の取組み、今後の課題をご紹介します。	宇宙航空研究開発機構 周波数管理室 橋本 昌史氏
第432回 2026年3月26日	WRC-27議題1.7 (IMT周波数の追加特定の検討) に関するITU-R Working Party 5Dにおける検討状況について	ITU 2027年世界無線通信会議 (WRC-27) 議題1.7について、ITU-R における検討責任グループであるITU-R Working Party 5Dの審議状況をご紹介します。WRC-27議題1.7に関連するITU-Rでの検討は、International Mobile Telecommunications (IMT) の将来的な利用拡大を目的として、4GHz帯、7/8GHz帯、14/15GHz帯を追加特定するために必要となる審議資料の準備を進めているものです。具体的には、これらの周波数帯における既存無線業務との共用・両立性の評価並びにCPMテキスト案の作成が主な作業内容となっています。本講演では、既存無線業務との共用・両立性を評価するためのIMTシステムのパラメータ設定、既存無線業務の保護基準に関する議論状況、更にそれらの情報を用いた共用・両立性評価モデルの構築についてご報告いたします。また、これらのモデルを用いたシミュレーションの実施状況及び現時点での評価結果についても併せて説明いたします。加えて、今後の課題やWRC-27に向けた各地域の暫定的な見解についてもご紹介いたします。	株式会社NTTドコモ 電波企画室 立木 将義氏

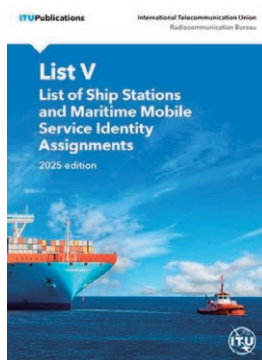
ITU-T研究会	テーマ	概要	講師
第578回 2026年2月6日	ICT産業がけん引するAI、データセンタのエネルギー効率・環境影響の国際標準化最新動向—ITU-T SG5の取組みをベースに—	2019年のダボス会議で提案された構想から、自然資本や生態系に関する企業のリスク管理と開示枠組みを構築するために設立された、日本から210社が参加する国際的組織「自然関連財務情報タスクフォース (TNFD)」が2023年に最終提言として開示フレームワークを公表するなど、企業活動における環境対応は「脱炭素」だけではなく「循環型経済、生物多様性」そして「気候変動への適応」が必要になってきています。 こうした背景のもと、情報通信技術 (ICT) ではAIやデータセンタ活用で増加するエネルギー消費、環境影響と、その対策に注目が集まっています。 本講演では情報通信技術を取り巻く環境、気候変動対策、循環型経済などに関するITU-Tの取組みと国際標準化の最新動向について、お話しします。	NTT株式会社 情報ネットワーク総合研究所 企画部 研究推進担当 担当部長 [ITU-T SG5 WP3/5副議長、 課題9/5Aラポータ] [博士 (工学)] 原 美永子氏



第579回 2026年2月26日	AI時代の信頼できる社会基盤 —SG17における最新のセキュリティ国際標準化動向をベースに—	AIの高度化とデジタルアイデンティティの多様化により、新たな通信・ネットワークサービスが期待される一方、なりすましなどのリスクは深刻化しています。相手を確認し、安全な取引を支えるトラスト基盤は、社会の不可欠なインフラになると見込まれます。また、量子関連技術の進歩により、従来の暗号や認証を量子時代に対応した方式へどのように移行するかも大きな課題です。 本講演では、ITU-T SG17における国際標準化の最新動向を幅広く取り上げ、これからの社会で重要となるセキュリティ技術の課題と展望を紹介します。	株式会社KDDI総合研究所 ユーザブルトラストグループ グループリーダー [ITU-T SG17副議長] 磯原 隆将氏
---------------------	---	--	---

情報通信研究会	テーマ	概要	講師
第138回 2026年2月9日	「人工知能と人間社会」に関する一考察	今日、人工知能（AI）は広く社会に浸透し、社会の在り方や人間の生き方にも深く影響を与える存在となっています。既に国や地域、国際レベルでAIのガバナンスに関する検討が行われており、立法やガイドラインの策定、自主的な取組みなど、様々な（AI活用の）アプローチが試行されています。 本講演では、2016年に日本が提唱した「Society 5.0」を起点として、「技術主導から人間中心へ」という科学技術イノベーション政策の転換を振り返り、AIガバナンスの国際的な動向を紹介しながら「AIと人間社会」の相互作用の在り方について、お話しします。	国立研究開発法人 情報通信研究機構 [NICT] GPAI東京専門家支援センター センター長 原山 優子氏
第139回 2026年3月3日	CES報告と米国ICT業界2026年の展望	CES 2026は、世界的なAIブームを背景に盛況を取り戻した。AI推論を搭載した端末やロボットなどが注目を集める一方、生成AIコンテンツ制作やデータセンタ関連展示も増えた。 巨大な設備投資を続けるハイパースケーラーを静観しながら、CSP大手は5G AdvancedをベースとしたサービスによるB2B市場の開拓や固定・移動ブロードバンドの抱き合わせ販売などに注力している。 今回はAIで沸くCESの報告と2026年のICT業界を展望したい。	ICTコンサルタント アリアル・イノベーション LLC CEO 小池 良次氏

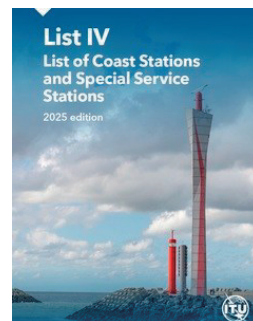
国際航海を行う船舶局に必須の書類 好評発売中！



船舶局局名録
2025年版



海上移動業務及び
海上移動衛星業務で使用する便覧
2024年版



-New!-
海岸局局名録
2025年版

お問い合わせ: hanbaitosho@ituaj.jp

